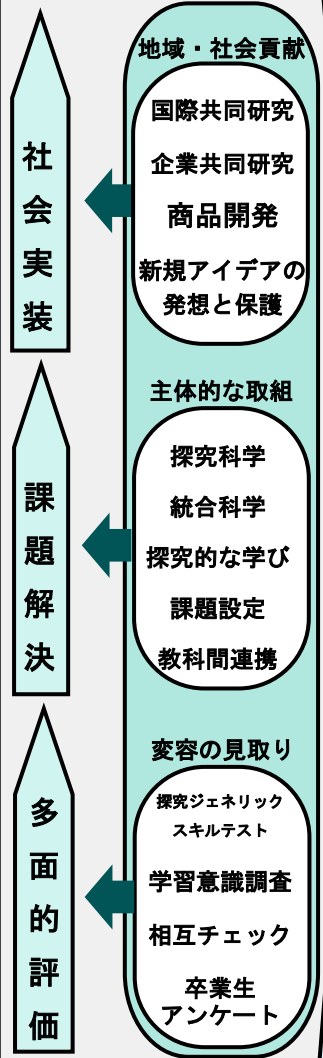




研究開発の目的・目標
科学の視点からグローバルに活躍し、社会や国を幸福に変革できる
研究者・技術者・研究開発マネジメント人材の育成

これまでの具体的な取組



(中学1年・中学2年)(中学3年・高校1年)(高校2年・高校3年)

探究基礎 英会話 統計とプログラミング	探究科学 統合科学 サイエンス英語 情報分析科学
---------------------------	-----------------------------------

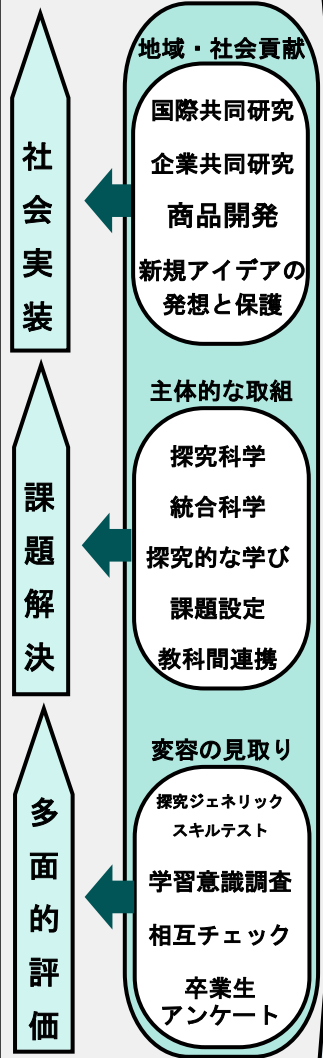
第Ⅳ期における具体的な取組

- 【Ⅰ ウェルビーイングの高まりを目指す全校体制での探究的な学びの充実】**
 - ・生成AIを探究活動の班のメンバーとして参加させ、「先行研究の調査」や、自己チェック（評価規準を満たしているか）等に活用する。【新規】
 - ・社会実装と国際共同研究に関する指導において、評価規準を用いた相互チェックを実施する。【新規】
- 【Ⅱ STEAM教育の視点に立った「探究科学」を中核とした教科横断的取組】**
 - ・「情報分析科学」及び「統計とプログラミング」を開講し、様々な事象を仮説検定等の統計学の知識・技能を用いて客観的に見取れるようになる教材、指導法及び評価方法を開発する。【継続】
 - ・相互チェックをツールとした探究的な学びの実践を通して、学校全体で教科間連携を推進する。【継続】
- 【Ⅲ 科学の視点で社会貢献するための地域・自治体・企業等との連携】**
 - ・『統合科学研究発表会』を実施し、御所市の職員や関係企業の研究者・技術者、大学教員に評価していただくことで、地域と世界の課題解決のレベルアップを図り、次年度以降の「探究科学」での研究に生かす。【新規】
 - ・外部評価を得るため研究者・技術者・自治体職員等への聞き取りを実施する。【新規】
- 【Ⅳ 中高一貫理数教育の特色を生かした異学年集団の学びによる科学的リテラシーの習得】**
 - ・異学年集団の学びにより、生徒自身で科学的リテラシーを習得するとともに、自己の学びの舵取りをすることができるように指導する。【継続】
 - ・中学校「英会話」で科学的な内容を取り扱う際は、高等学校「サイエンス英語」と合同授業とし、高校生が中学生を指導する。【新規】
- 【Ⅴ 世界規模の課題を解決するための国際性の育成及び国際共同研究】**
 - ・「サイエンス英語」を高校1年・高校2年で開講し、教材、指導法、評価方法の開発を行う。【新規】
 - ・『コアメンバー』を中心とした希望生徒を対象に、海外姉妹校等との国際共同研究プロジェクトを実施し、異文化環境でも課題解決できる資質・能力を育成する。【継続】



研究開発の目的・目標
科学の視点からグローバルに活躍し、社会や国を幸福に変革できる
研究者・技術者・研究開発マネジメント人材の育成

これまでの具体的な取組



(中学1年・中学2年)(中学3年・高校1年)(高校2年・高校3年)

探究基礎	探究科学
英会話	統合科学
統計とプログラミング	サイエンス英語
	情報分析科学

第Ⅳ期における具体的な取組

- 【Ⅰ ウェルビーイングの高まりを目指す全校体制での探究的な学びの充実】**
 - 生成AIを探究活動の班のメンバーとして参加させ、「先行研究の調査」や、自己チェック(評価規準を満たしているか)等に活用する。【新規】
 - 社会実装と国際共同研究に関する指導において評価規準を用いた相互チェックを実施する。【新規】

重点配分

 - 卒業生サポーター、企業や行政機関の研究者・技術者、大学教員により『青翔スカイゲート』を形成。共同研究を推進する観点から、企業の研究者・技術者には本校生徒の研究を知ってもらい、連携していただけるようにする。支援できる分野が合う方にメンターとなっていただくことで、生徒が指導・助言を受けやすいようして、研究のレベルを一層向上させる。【新規】
- 【Ⅱ STEAM教育の視点に立った「探究科学」を中核とした教科横断的取組】**
 - 「情報分析科学」及び「統計とプログラミング」を開講し、様々な事象を仮説検定等の統計学の知識・技能を用いて客観的に見取れるようになる教材、指導法及び評価方法を開発する。【継続】
 - 相互チェックをツールとした探究的な学びの実践を通して、学校全体で教科間連携を推進する。【継続】
- 【Ⅲ 科学の視点で社会貢献するための地域・自治体・企業等との連携】**
 - 『統合科学研究発表会』を実施し、御所市の職員や関係企業の研究者・技術者、大学教員に評価していただくことで、地域と世界の課題解決のレベルアップを図り、次年度以降の「探究科学」での研究に生かす。【新規】
 - 外部評価を得るため研究者・技術者・自治体職員等への聞き取りを実施する。【新規】
- 【Ⅳ 中高一貫理数教育の特色を生かした異学年集団の学びによる科学的リテラシーの習得】**
 - 異学年集団の学びにより、生徒自身で科学的リテラシーを習得するとともに、自己の学びの舵取りをすることができるように指導する。【継続】
 - 中学校「英会話」で科学的な内容を取り扱う際は、高等学校「サイエンス英語」と合同授業とし、高校生が中学生を指導する。【新規】
- 【Ⅴ 世界規模の課題を解決するための国際性の育成及び国際共同研究】**
 - 「サイエンス英語」を高校1年・高校2年で開講し、教材、指導法、評価方法の開発を行う。【新規】
 - 『コアメンバー』を中心とした希望生徒を対象に、海外姉妹校等との国際共同研究プロジェクトを実施し、異文化環境でも課題解決できる資質・能力を育成する。【継続】

重点配分

 - 国際共同研究において、多面的評価をツールとした研究テーマの設定、探究活動の進め方をパッケージ化した『SGNP (Seisho Global Navigator Program)』を研究開発し、これから国際共同研究を実施しようと考えている高等学校等に成果普及を行う。【新規】